



## 小針 健治

社団法人東北経済連合会副会長

### ざるをかぶった犬

私も相応に年を老ったということなのでしょうが、お正月には何かしらエトの置き物を玄関に飾ったり、あるいはお年始代わりに親しい人たちにお配りするの、いつのまにか毎年の慣わしとなってきました。

ことしのエトは、戌です。江戸張り子なんかいいなあ、と出かけたついでにそれとなく捜していましたが、ざるをかぶったイヌの張り子と出会いました。

可愛らしいイヌが、頭にざるをかぶっているんです。何でイヌなのにざるをかぶっているのか、変だな、と見とれていたら、店の人が、「ざるは何でできていますか」と聞くんですね。「竹でしょう」と言ったら、「そうですね、そうですね。犬の上に竹ですから、笑いになります」満面の笑顔で、教えてくれました。犬の、をちょっと付け替えれば、なるほど、「笑い」となります。

私も思わず笑ってしまって、このざるかぶり犬を大量に買いこみ、玄関やら床の間に飾ったのはもとより、友人たちにも謹んで進呈しました。いちばんよかったのは、犬に竹で笑いでしょうと説明すると、皆さん、笑われるんです。私も説明しながら、笑います。その場がなんとも和やかで、ほっとした空気。笑う門には福来たる、です。

ところが、年が明けたら、耐震偽装問題にライブドア事件、アスベスト被害の拡大に地球規模の天候不順、心も凍るような凶悪事件の発生に、民主党の腰くだけ、少しも解決しないニート問題などなど。一つ一つ挙げたらきりが無いほど次から次へと問題が起きています。政治が、経済が、国際が、教育が、まさに「がらがらぼん」と混ざり合って何でもありのような、たいへんな状況が連続しています。常識も非常識も未常識もほとんど意味がない。一体何がどうなるのか、経営人として先見の明をといわれても、ただ黙りこむしかない。へたに分析したり評論するとかえってまちがうのではないか、と思います。こういう時は、できるだけ大きく目を見ひらいて、何一つ見逃さないようにじいっと見続けていること。わからないままにいることも時には正解ですから。

よし。自ずと時代の道すじが見えてくるまではじたばたしないでその日その日を楽しんで生きることだ。そう心を決めたら、すっと体が軽くなりました。私は丑年ですが、ことしはざるかぶりのイヌとなって、日々是好日、よく笑って過ごそうと思っています。

(福島県経営者協会連合会会長 小針 健治)